

たこやまやしき  
凧山屋敷遺跡

所在地 瀬戸市凧山町地内  
 調査理由 県道瀬戸設楽線建設  
 調査期間 平成 14 年 1 月～3 月  
 調査面積 1,600 m<sup>2</sup>  
 担当者 服部信博・宇佐見 守・藤岡幹根



調査地点 (1/2.5 万「猿投山」)

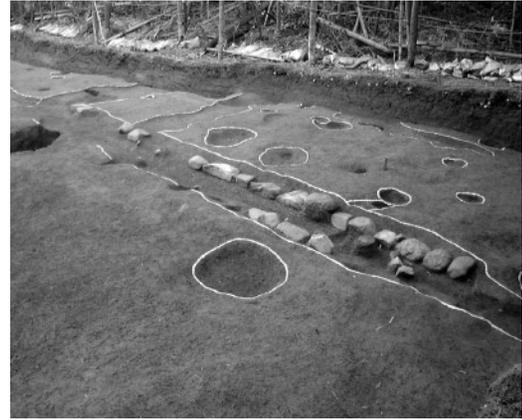
**調査の経過** 調査は県道瀬戸設楽線建設に先立ち、愛知県建設部道路建設課から愛知県教育委員会を通じて委託を受け実施した。昨年度の範囲確認調査では、試掘トレンチから、古代から近代にかけての遺物が出土した。本年度の調査は、調査区南側を A 区、北側を B 区として実施した。

**立地と環境** 遺跡は、瀬戸市の南東部、瀬戸市凧山町に所在する縄文時代から近代にかけての複合遺跡で、矢田川支流である赤津川左岸、標高 190 m 前後の丘陵（凧山）北西斜面に立地する。周辺の遺跡としては、北東から南西にかけての丘陵に凧山 A 窯跡・凧山 C 窯跡・凧山窯跡・瓶子窯跡と中世から近世にかけての窯跡がある。

**調査の概要** A 区は遺物包含層が良好に残存し 4 面調査となった。上層から近代（暗褐色砂質土）、近世（灰黄褐色砂質土）、戦国（暗褐色土）、古代・中世（黒色土）の時期に該当すると考えられる。調査区南部に広がる黒色土および地山直上で、古代の竪穴住居 1 軒（S B 01）と中世の集石遺構（S K 476）を検出し、古代の須恵器・土師器、中世の山茶碗・古瀬戸製品が出土した。また、黒色土上でピット群を検出したが、その多くが掘立柱建物の柱穴と考えられる。調査区南部に広がる暗褐色土ないし調査区北部の地山直上で、根石を持つ柱穴群、溝（S D 07 他）、大型土坑（S K 55・172、S X 07 他）を検出した。根石を持つ柱穴の大きさは、まちまちだが、直径 60 cm 以上の大型のものは、穴を深く掘削し途中まで埋め戻して根石をすえている。S D 07 は調査区南部で検出した溝で、検出長約 22 m、幅約 2 m、深さ約 50 cm を測る。屋敷の区画溝と考えられ、山（東）側から廃棄された様に人頭大の円礫（花崗岩）や陶器（古瀬戸から大窯にかけて）が多く出土した。調査区北部の大型土坑も円礫や陶器が出土し、廃棄土坑と考えられる。遺跡名の由来となった近代の屋敷に関わる遺構として、石垣と石組み溝（S D 01）を検出した。S D 01 は調査区南部で検出した溝で、検出長約 17 m（石組みの残存長は 7.5 m）、幅約 1.2 m、深さ約 20 cm を測る。石組みは 1 ケ所のみ 2 段となっている他は 1 段で、石材は花崗岩の円礫である。また、調査区北部で、幕末から近代にかけての陶磁器が多く出土した。出土遺物の多くは近隣の窯跡で焼成されたと考えられる陶磁器や窯道具である。しかし、窯跡で見られる様な失敗作は少なく、窯道具も完形に近いものが多い。また、土師質の鍋や皿など窯での焼成品以外のものや、使用痕のある播鉢などが出土している。このことから、この地が近隣の窯跡と関連した場と考えられる。 (宇佐見 守)



近代の屋敷に伴う石垣



石組み溝 (S D 01)



調査区全景 (2面)



廃棄土坑 (S X 07)



遺物出土状況 (S K 55)



遺物出土状況 (S K 174)



大型土坑 (S K 172)



遺構検出状況 (3面)